

# 第10回幼児教育実践学会 ポスター発表 企画趣旨概要一覧

2019年8月20日(火)10時50分～13時00分

- ① 鳥取県:小谷直美(認定こども園倉吉幼稚園主幹保育教諭)、矢吹真輝・中村麻美(認定こども園倉吉幼稚園保育教諭)  
テーマ:乳幼児期の生きる力の根っこ育て～“土踏まずと下あごの形成”を目指して～  
平成19年度からスタートした本研究は、翌年の文部科学省教育推進モデル事業を契機に研究者や医師と教職員によるプロジェクトチームの立ち上げと検証軸となる測定計器の購入により大きな一歩を踏み出し毎年6月の自主公開研究発表会開催と共に12年目を迎えた。この取り組みは本園乳幼児教育の柱の一つである「丈夫な身体をつくる」の中に「土踏まずと下あごの形成」という2つの窓口を設け、遊びの見直しや創造。或は、専門家や家庭の目を通して子どもたちを覗くことで、より良い身体の発達を土台にした子どもの主体的な遊び込みの姿の変容を見届ける。
- ② 大阪府:里田初美(認定こども園せりりひじり幼稚園保育教諭)、中嶋由紀子(認定こども園せりりひじり幼稚園保育教諭)  
テーマ:育ち合う預かり保育を目指して～100名の大家族 多くの課題を乗り越えて～  
認定こども園になり1号、2号合わせて100名以上の預かり保育をする中で午前の保育とは違う午後からの預かり保育(長時間保育)は、子どもたちがお家でゆったり過ごすように温かい雰囲気第一に考え、「環境の見直し」や「異年齢での育ち合い」を大切にしている実践の発表。また幼稚園(1号、2号)の連携や保育園(2号、3号)との連携や預かり保育担当スタッフ全員での共通理解の難しさや困った事を改善している現状を伝える。
- ③ 北海道:丸谷雄輔(札幌ゆたか幼稚園園長)、竹内倫子(札幌ゆたか幼稚園教務主任)、池田麻美・笹川麗(札幌ゆたか幼稚園教諭)  
テーマ:子どもと紡ぐ保育<プロジェクト活動>  
当園では、身近な生活の出来事に興味・関心を寄せ、遊びに取り入れたり、子ども同士が試行錯誤しながら活動を展開していく保育を日々大切にしている。“やってみよう”から始まったクラスでのごっこ遊び。一人ひとりの良さや特性を生かしながら目的を共有し、友達と一緒に実現に向けて想いを伝え合い、一人ひとりが主体性を発揮できるよう支えてきた。今回は「映画館」「おまつり」「ラーメン屋さん」等のプロジェクト活動に焦点を当て、一人ひとりの育ちをまとめ、分析し、発表することにした。
- ④ 大阪府:平林祥(大阪府私立幼稚園連盟教育研究委員会教育研究副委員長)、埋橋玲子(同志社女子大学教授)  
テーマ:OPARK:継続的な園の質向上のための園評価と研修-リーダーシップ・マネジメントの質向上に着目して-  
大阪府私立幼稚園連盟では、2015年度より継続的な園の質向上のための園評価と研修のシステム「OPARK」の構築に取り組んできた。保育の質を向上する上で、各園のリーダーシップやマネジメントの質の向上は大変重要であるにもかかわらず、それらに関する具体的な訓練や研修などは組織的に実施されていない。尺度の作成とそれを用いた自己評価の支援、外部評価の実施、実態に応じた実地指導や研修の提供などを通して、リーダーシップやマネジメントの質の向上から園の質向上を目指す取り組みについての中間報告を行う。
- ⑤ 兵庫県:樋口詩菜(幼保連携型認定こども園はまようちえん統括キャプテン)、関野純子(幼保連携型認定こども園はまようちえんナーサリーリーダー)  
テーマ:「チームはまよう」の保育の質を高める園内研修のすべて～チームの高い関係性が生み出す、自発的な園内研修システム～  
はまようちえんでは18年前、園長交替に伴いそれまでの園のあり方を抜本的に見直す園改革に着手した。改革の土台としたのが「体験学習法」をベースにしたファシリテータータイプの園内研修。園を「チーム」と位置づけ、ファシリテーターが園内研修を企画運営するその研修スタイルは、初任者からトップマネジメントまでの意識と行動を変容させ、保育のみならず園全体の質が大幅に向上することにつながった。最近リーダーが自発的に園内研修をプロデュースし、後輩の育成を行っており「自ら学び、ともに育ちあうチーム」として日々自己研鑽するようになった。今回のポスター発表では、現在「チームはまよう」が実施している全園内研修を『園内研修の松竹梅3類型』に沿って紹介する。
- ⑥ 東京都:大橋華名(駿河台大学第一幼稚園教諭)、須澤めぐみ・佐藤雅美(駿河台大学第一幼稚園主任教諭)、佐藤恵美莉・金井ゆうみ(駿河台大学第一幼稚園教諭)  
テーマ:子どもの「したい」「やりたい」を支える保育～ライブショーごっこ遊びを通して～  
年長5歳児が友達と一緒に始めた「ライブショーごっこ」の遊びがあった。その楽しさが、様々な形で変化して伝え合いやかかわり合いが生まれ、全学年の相互作用がみられる充実した遊びになった。幼児は、遊びを作っていく楽しさを味わい、もっと面白くしたいと工夫や試行錯誤を繰り返していた。ごっこ遊びを通して遊びが“ひろがり”“ふかまり”“またやりたい”(わくわく・おもしろかった)になるための教師の援助、環境構成、物とのかかわりなどを探り、ポスター発表を行いたい。

- ⑦ 大阪府:山田亜佑未(御幸幼稚園・さくらんぼ保育園主幹保育教諭)、辻弘美(大阪樟蔭女子大学学芸学部心理学科教授)、小谷卓也(大阪大谷大学教育学部教授)

**テーマ:0・1 歳のかがかくあそびを支える保育者のかかわりと環境**

これまで幼保連携型認定こども園の3～5歳児において、かがく遊びを通じた探求するチカラの育成に注目してきた。これらのかがかく遊びを乳児期の子ども(0～2歳児)にも導入し、そこで保育者の関わりや子どもへの援助、そして物的環境について実践研究を行っている。これらの実践について、保育者の関わりに注目して分析・考察を行った。

- ⑧ 兵庫県:横山菜奈(認定こども園七松幼稚園保育教諭)、堀川茜(認定こども園七松幼稚園保育教諭)

**テーマ:5歳児の『学び』と『育ち』を育む劇遊び**

5歳児2クラス53名が日々の活動から劇遊びを発展させ、2月の生活発表会を行った。友だちと台本作りや配役などから話し合いを重ね、身近にあるビデオカメラ、ipad等の映像機器を使用するなどし、試行錯誤をくり返した。子ども達が主体的に作り進めていく中で見えてきた子どもの姿や保育者側の助言、指示の在り方、見守りなど関わりについて発表する。

- ⑨ 北海道:太田希(認定こども園北見北光幼稚園主幹教諭)、請川滋大(日本女子大学准教授)、吉田耕一郎(認定こども園北見北光幼稚園園長)、堀畑亜美(認定こども園北見北光幼稚園保育教諭)

**テーマ:水族館ごっこ「主体的・対話的で深い学び」を目指した実践報告**

様々なことに興味関心を持ち、遊びの中で探究してきた子どもたちが、3学期に入ってから「水族館ごっこ」を始めた。徐々にその輪は広がり学年全体の取り組みとなり、全員で役割を決めて作る事に発展していった。3年間子どもたちが経験した事、体験した事、探求してきたことが遊びの中のアイデアにたくさん詰まった遊びになり、最後まで互いに刺激し合いながら遊びを展開していった姿を報告します。

- ⑩ 東京都:堀内亮輔(社会福祉法人葛飾福祉館保育士・プレイリーダー)、富田泰介(本田こひつじ保育園保育士)、伊藤浩之(東四つ木こひつじ保育園保育士)

**テーマ:親子運動遊びの有効性**

本研究では親子運動遊びの有効性を明らかにすることを目的としている。社会福祉法人葛飾福祉館では地域活動の一環として、月に1回程度、地域の親子を対象に親子運動遊び(おやこであそぼう)の会を実施している。具体的な内容として、「親子ふれあい遊び」「親子でヨガ」「親子で絵本」「親子でにつぼんあそびすごろく」といった4つのコーナーに取り組んだ。本発表においては、これらの内容を記録した写真付きの資料や実際に使用した教材を紹介して言うと同時に、参加者を対象としたアンケート調査を基に親子遊びの有効性を多面的に捉えていく。

- ⑪ 北海道:畠山和紀(はやきた子ども園保育教諭)、井内聖(恵庭幼稚園園長)

**テーマ:4歳児の生活空間の違いで見られる幼児の行動について**

今年の4歳児は、開放的な環境を区切ることで使用している生活空間とドアのついた閉鎖的な生活空間の2つにそれぞれのクラスが分かれて生活をしている。その相反する環境の中で、子どもの育ちにどのような変化があるのか。または、違いはなく他の要因が見られるのか。本研究では、空間の違いによる園児の様子の比較を通して環境構成による子どもへの影響を調査し、幼児の環境を空間作りの視点から考察する一助としたい。

- ⑫ 東京都:黒崎知子(武蔵野東第一・第二幼稚園学年総主任)、戸田裕美子(武蔵野東第一・第二幼稚園年長担任)、宮下薫(武蔵野東第一・第二幼稚園年長副主任)

**テーマ:「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解を深めるための園内研修**

幼稚園教育要領が改訂され、新たに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されるようになったことで、環境を通して総合的に発達していく子どもの姿を、多様な視点から捉える必要があること、その視点として10の姿への意識を高めていくことが大切であることが理解できる。そこで本園では、園内研修を通して10の姿を具体的な子どもの姿として捉え、理解を深めていくようにした。動画や保育記録など、様々なツールを使い、重ねてきた研修の紹介と、私たちの気づきについてまとめた。

- ⑬ 静岡県:岡村由紀子(平島幼稚園園長)、金子明子(平島幼稚園公認心理師・臨床発達心理士)、赤木和重(神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)

**テーマ:5歳児の話し合い場面に見る就学前の育ち**

当園は、人間関係の豊かな発達と面白さの追求であるあそびを大事に保育実践を続けている。5歳児の人間関係のねらいは「あそびや生活の中で自主的に問題解決しながら、あそびや生活を組織し、達成感を味わう」である。5歳児の問題解決は話し合いである。5歳児の話し合いの過程は、①自己主張②他者理解③自己コントロール④合意形成で進んでいくと考えられるが、実際の話し合いの内容は様々である。合意形成に至るために、就学前の5歳児の子どもの中に、どういった力が土台として育っているのか明らかにしたい。

- ⑭ 長崎県:加藤美香子(三和幼稚園主幹保育教諭(医学博士))、深井美子(ウオクニ株式会社長崎支社管理栄養士)

**テーマ:園で行なう『食育』の家庭へのアプローチが及ぼす好影響**

幼児教育保育施設で『食育』に取り組む際に、「園での食育が、なかなか家庭に浸透しない」「園での食育を保護者にどのようにアプローチしたら良いかわからない」ことが課題として挙げられている。三和幼稚園では『食育』の家庭に向けた啓発活動の検討を重ね、実施している。その結果、園で行なっている『食育』活動が①食を通じて家族の会話が増える。②保護者が栄養や成長発達に興味関心を示すようになる。といった好影響を及ぼすことが明らかになった。

- ⑮ 青森県:藤野和子(幼保連携型認定こども園弘前大谷幼稚園理事長・園長)

**テーマ:子ども主体の保育とはなにか。(主体性について考える)**

子どもの主体性とはなにかについて考えたとき、そこにある人がどのように子どもをみるかでその主体が変わってくる。また、子どもを人間としてみると、はじめてありのままである主体がみいだされ、その子がその子らしくあろうとしていることが受容され、そのこどもの世界が広がっていく。そして、対話を通してそれは全体のブームとなり、協同的な深い学びにつながっていく。昨年度実際にあった事例をもとに、こどもの主体性とはなにかについて考察し、主体である子どもと保育者はどう関わったらいいのか、また、主体性とはなにかを考える。

- ⑯ 三重県:松永高弘(暁幼稚園園長)

**テーマ:見える化による「10の姿」の伸長 ～幼小教育連携に向けて～**

思考力や判断力、表現力といった非認知能力の重要性が強調され、「10の姿」という形で整理し、幼小の学びの接続の基軸になっている。その非認知能力を園として教員が共通の視点を持ちながら段階的に伸長させていくための方法として本園独自の評価指標(暁幼稚園版ルーブリック)を作り上げ、それに基づいて保育実践を行っている。結果として幼小の教育連携の強化につながっていくと考える。その取り組みの経過と成果、現状と課題を提案したい。

- ⑰ 静岡県:中村章啓(社会福祉法人柿ノ木会野中こども園副園長)

**テーマ:ドキュメンテーションを活用したカリキュラム・マネジメントの展望**

写真を活用した記録(ドキュメンテーション)は、保護者等への情報提供としての使用に留まらず、子どもの主体的な活動の姿から学びを読み取るリフレクションの資料として、PDCA サイクルの循環によるカリキュラム・マネジメントに活用することが望まれている。しかしながら、ノンコンタクトタイムの確保が難しい施設においては、その導入が却って職員の負担を増加させることにもなりかねない。本研究は、職員の負担を増加させることなくドキュメンテーションを活用する方策を、実践を通して探求するものである。

- ⑱ 富山県:波岡千穂(堀川幼稚園副園長)、前川美里・眞岩夕希(堀川幼稚園保育教諭)

**テーマ:保育者主導から子ども主体の発表会へ～子どもたちが作り上げる発表会への取り組みを通して～**

保育者が題材を選び、大道具や衣装も大人が作り、保育者が考えたことを正しく覚え、上手に表現できるように、当日の成果のための発表会は、誰のための発表会なのだろう?発表会当日の成果を重視した発表会から、それまでのプロセスや育ち、学びのつながりを大切に考えた『子どもたちの子どもたちによる子どもたちのための発表会』への試行錯誤の10年間を経て、現在の取り組みと課題について発表する。

- ⑲ 宮城県:阿部侑香(矢本はなぶさ幼稚園教諭)

**テーマ:子どもたちの豊かな感性を育む～音楽の楽しさを通して～**

音楽にかかわる活動を通して、子どもたちの豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするという研究目標を設定し、内容や方法の解決のため、仮説を立て研究を進めた。年少児はリミック活動において、様々な音域や音色、テンポ、リズムを体験させ、子どもの好奇心や表現力を育む。年中児は、鍵盤ハーモニカや楽器を身近に触れられるような環境を作り、向上心や積極性を引き出す。年長児は、鼓笛隊やミュージックベル合奏などの発表を目指した取り組みの中で協調性、集中力、感受性を高め、充実感や満足感を培う内容である。また、実態調査を行い6月から12月までの子どもたちの変容の姿を捉えている。

- ⑳ 神奈川県:根津美英子(関東学院六浦こども園園長)、千葉綾子・松下成美(関東学院六浦こども園主任保育教諭)、石塚香苗・村松直人・川口耕平・渡邊勇貴(関東学院六浦こども園保育教諭)

**テーマ:子どもが育つ外環境**

「幼児期の教育は環境による教育」「環境に自ら関わり遊ぶことで子どもたちは育つ」「子どもたちの豊かな体験は環境によって引き出される」と言われるように、園庭の在り方は子どもの成長に大きな影響を与える。そこで大人が願いを持って用意した外環境が子どもにとっての「場」になっていくプロセスや、子どもが育つ場となっていくための要素について、環境の変遷と共に、実態やエピソードを検討することで明らかにしていきたい。

- ㉑ 北海道:山中健司(旭川ふたば幼稚園園長)、島唯菜(旭川ふたば幼稚園副主任)

**テーマ:遊びを中心とした保育への転換 ～園庭整備から保育の記録見直しへ～**

教師主導型・一斉保育の保育から遊びを中心とした保育へ転換・園庭整備を初めて4年程度が過ぎ、園庭改造から見てきた保育者の遊びの捉え方、遊びの見取りなどの変化や子ども達の遊びへの関わり方の変化を発表します。また遊びの変化を読み取るために保育記録の見直しを行い、保育者の遊びを見取る力の向上にも力を入れてきたのでその途中経過を報告します。

- ㉒ 愛知県:鈴木さつき(林丘幼稚園主任)、内藤秀己(林丘幼稚園園長)

**テーマ:子どもも保護者も先生も うきうき わくわく 楽しい運動会 —— 忍者 ——**

毎年、職員みんなでテーマを考え夏休み前後から始まるストーリー。そこに、子ども、保護者、先生が入り込みストーリーの登場人物になって楽しんでいく。ストーリーの結末には保護者も参加。ストーリーが結末を迎える時、それが林丘幼稚園の運動会です。今まで、はらぺこあおむし・オリンピック・誕生日パーティー・サーカス・宝箱・仙人と色々なテーマで行ってきました。今年のテーマは『忍者』。子どもたちがうきうき・わくわく運動会に向かっていく様子を発表します。

- ⑳ 北海道:上別府里紗(恵庭幼稚園教諭)、井内聖(はやきた子ども園園長)  
テーマ:子どもの目線から見えるものとは  
保育室等の環境設定は子ども理解に立ち、個別の配慮および合理的な配慮の上に進めている。しかし、なかなか自分の身の回りの準備や1日の流れの理解など、いつも同じところで躓く園児がいる。現状の環境設定や保育者の言葉掛けが果たして子どもにとって安心でき、行動しやすい環境等になっているのだろうか。実際に子どもの目線の高さで子どもの視界を記録することを通して、そこから見える大人と子どもの視点と世界の違いに着目し、子ども理解に立った環境設定に繋がる視点を見つけていきたい。
- ㉑ 宮城県:本城晴菜(蒲町こども園保育教諭)、小岩未乃莉(蒲町こども園保育教諭)  
テーマ:5歳児研究 ～非認知能力を高めるための持続的で発展的な活動を求めて～  
当園では、「自分で選び」「共に考え」「何度も挑戦する」子どもの姿をキーワードとして、40程度のコーナーを設定し、異年齢活動に取り組んでいる。例えば、科学エリアのスライムコーナーでは、ホウ砂や洗濯糊、水の量を計量カップで調整しながら、適度な硬さになるまで挑戦している。子どもたちが自分の好きな活動を楽しみながら、試行錯誤を繰り返し何度も失敗をして、その活動を発展させている。持続的で発展的な体験活動をとおして、自己肯定感や持続力、根気強さなどを身に付けていく子どもの姿を提案する。
- ㉒ 富山県:波岡千穂(富山県私立幼稚園・認定こども園協会教育研究委員会委員長)、原田由美・藤島秀恵(教育研究委員 ECEQ コーディネーター)  
テーマ:「やって良かった公開保育」～ECEQ の理解と普及のために～  
富山県にECEQ コーディネーターが養成講座受講者を含め7名います。メンバーとしてシステムの良さや保育の質向上へのアプローチへの良さを感じ、富山県内の公開保育やECEQ のシステムを利用した活動をもっと進めたいと創意工夫し、メンバーがまず「やって良かった」を感じられる活動を行っています。そこで、公開保育は難しくとも、メンバーがいる地区での教員研修(主任研修、中堅研修、若手研修)や有志園による自主プチ公開保育を、ECEQ のシステムを活かすコーディネーターのトレーニングの場として行っています。
- ㉓ 東京都:上野純子(共立大日坂幼稚園園長)、間宮紗矢香・渡邊美季・山田有希(共立大日坂幼稚園教諭)、池田朋子(共立大日坂幼稚園主任)、田代幸代(共立女子大学教授)  
テーマ:私たちの園内研修～担任が捉えた「主体的に遊ぶ子供の姿」から、事例発表を通して～  
毎年私たちの園で取り入れている園内研修は、その年度により領域やスタイルは様々である。今回、園の教員が、「学びあう」「共に育ちあう」ことに重点を置き園内研修を実施した。「主体的に遊ぶ姿を捉えて」をテーマに3歳児、4歳児、5歳児の担任其々が事例発表した。この研修会当日に園の教員だけでなく本学園大学教員が加わったことで、更に豊かな学びに繋がった。写真展示と併せて紹介する。
- ㉔ 北海道:中川絵理(美晴幼稚園教頭)、大島奈々・逢坂奈津子(美晴幼稚園主任教諭)  
テーマ:主体性の充実を図る保育の展開について(ちゅーりっぷの活動を中心に)  
本園は生活のベースとなるホームクラスは学齢3～5歳児異年齢混合の3クラス編成で保育し、活動に応じて学齢別の3グループを編成し保育している。いわゆる縦割、横割での集団編成での保育に加え、全園児と保育者で子どもの興味関心に応じたあそびを展開(斜め割)する全園活動「ちゅーりっぷ」がある。この活動の計画の方法を見直し、より「ねらい」を明確にした保育の計画・実践・ふり返りのプロセスを研究し発表する。
- ㉕ 福井県:鳥山朋代(藤島幼稚園主幹保育教諭)、木村友美・高橋里奈(藤島幼稚園保育教諭)  
テーマ:子どもの「やりたい！」を実現する保育実践  
子どもたちが、好きなあそびを展開していく中で、「やりたい」という興味や関心を起点に、より充実した環境をつくり、0歳児から5歳児までの発達に応じた保育の在り方を考察していく。園内研修において、日常の中で、子どもが自分から探求したり、試したりする経験がより膨らんでいくよう考え、一人ひとりの子どもの、ちょっとした「やってみよう」とする気持ちの芽生えを大切に捉え、遊びの環境を工夫していきたい。また、実践を通じて、育ちのプロセスを可視化し、同僚や保護者と共有していきたい。
- ㉖ 神奈川県:福島葵(認定こども園かもいようちえん教諭)、石渡佳奈(認定こども園かもいようちえん教諭)  
テーマ:いまさらながらのダンゴムシ  
バケツに沢山ダンゴムシを集める子。手に乗せじーっと見ている子。子どもってダンゴムシ好きなんだな～と思っていた私。ある日の放課後、職員間での話題で「ダンゴムシをプランターの小さい穴に入れている子がいたよ、そこがおうちって思ってるのかな？」という先輩先生の話聞いて、目線の違いを感じ、そんな見方もあるなんて面白い！と気づかされた。今までと違う角度から、ダンゴムシと子どもの関わりを見たい。そこから新たな保育の可能性を見つけたいと思う。

- ③⑩ 神奈川県:石井稔江(かぐのみ幼稚園園長)、石井望(かぐのみ幼稚園副園長)、遠入莉夏・舟橋麗・重森好美(かぐのみ幼稚園教諭)  
テーマ:子どもを真ん中に、みんなでアート&サイエンス～海洋プラごみを保護者・保育者・地域の人々で学び合う～  
かぐのみ幼稚園は湘南の一角にあり、三方を小高い山にすっぽり囲まれ、子どもたちは日常的に自然豊かな環境の中で遊び、四季を体で感じながら育っている。昨年度、父母の会より環境問題になっている海洋プラスチックゴミを使って、アートにするワークショップを行いたいという提案があった。保育の中でも「海・山・川など自然の中で夢中になって遊ぶ」ことをテーマにしており、接点があったため、単にイベントとして行うのではなく、カリキュラムのなかにしっかりと位置づけて、総合的な活動となるように計画した。家庭と連携することで、保育内容の充実と保育理解が深まると共に、園で取り組んだ海洋プラごみのことが地域に発信・警鐘されていくという結果につながり、子供を真ん中に大きなプロジェクトに発展していった。
- ③⑪ 大阪府:石塚貴史(庄内こどもの杜幼稚園専任体育講師)  
テーマ:幼児における体力の低下とその改善方法について  
時間、空間、仲間「3つの間」の減少により幼児の体力が低下している。幼児の体力の低下は遺伝的な要因だけでなく、環境的な要因も大きく関係がある。園内の環境や取り組みが幼児の身体活動量に影響があるのではないかと着目し、当園では園内の運動環境の中で身体活動量を確保できるように内容を工夫し、ライフレコーダーを使用し歩数と身体活動強度を用いて計測した。
- ③⑫ 高知県:南部由美子(認定こども園若草幼稚園教諭)  
テーマ:劇づくりにおける一人一人の意欲を支える保育者の援助、環境構成  
保育に携わる中で、クラス子どもたちと創り上げていく「生活発表会」の創作劇において、幼児の意欲と保育者の意図性のバランスをどのようにとっていくことがより良い育ちを支えるものとなるのか、難しさを感じる場所がある。4歳児25名の実践事例から、幼児の表現の機会である「生活発表会」の劇づくりの過程における「子どもの主体性」と保育者の援助、環境構成について、考えていきたい。
- ③⑬ 神奈川県:小林由香(太陽第二幼稚園教務主任)  
テーマ:子どもの意欲を高める「ネコクラブ」の実践について  
当園では、日々の保育活動における子ども達の意欲を高めるための手段として、年長児を対象とした「ネコクラブ」と名付けた活動を行っている。「ネコクラブ」とは、子ども達が猫になりきって様々な遊びや各種活動を実践する場であるが、普段姿での活動よりも、カリキュラムに対する興味関心が高まり、意欲や集中力の向上に繋がっているとの実感をえている。本稿では、この運営によって感じ取れる子ども達の変化の実例を挙げ、効果等の考察を行っていく。
- ③⑭ 神奈川県:宮里耕太(太陽第一幼稚園主事)、今岡健太郎(太陽第一幼稚園教務主任)  
テーマ:「園舎の雨水デザイン」～室内環境に雨を取り入れたことで生まれる新たな可能性～  
雨が降ると室内で過ごすことが多くなってしまいがちだが、“雨”は子どもが“水”と出会う絶好の機会である。この自然からの贈り物の“雨”を最大限に活かしていくべきである。今回は、“雨”を室内環境に取り入れることで、“雨”が子どもの日常の中に入り込むようにする。そこから、子どもの遊びや生活がどのように変化するか観察し、どのような影響を与えるか考察していく。
- ③⑮ 神奈川県:佐野文香(幼稚園型認定こども園宮前幼稚園保育教諭)、鈴木美里(幼保連携型認定こども園宮前おひさまこども園保育教諭)  
テーマ:午後の保育の質向上に向けて～認定こども園へ移行しての課題と可能性～  
認定こども園に移行して2年目。午後の時間を園で過ごす子どもたちが、より充実した生活を送る為の保育について考えていく。具体的には、午後の教育目標・教育課程を作成し、長時間過ごすことになる保育室や園庭の環境をどのように設定するか、そこでの遊びがどのように展開されていくかを計画・実践から振り返っていく。また、保育者間の連携についても考えていく。午後のクラスでは複数担任。午前の時間の担任。と様々な保育者がいる中で、どのように連携をとっていくかについても探していきたい。
- ③⑯ 岐阜県:永瀬あつ子(若葉第一幼稚園主任教諭)、杉山章(東海学院大学准教授)、梅田裕介(中部学院大学助教)  
テーマ:外でも内でもない環境のある幼稚園～「みんなのひろば」の活用事例～  
昨年、園庭の一部を改修する際に、子供の興味・関心や幼児期に必要な遊びや学びを考慮し、外でも内でもない環境である『みんなのひろば』を完成した。この全天候型の環境で様々な遊びが展開されている。また、本園は地域に開かれた幼稚園を標榜し、未就園児を対象とした子育て支援や夕方の園庭開放等の取組を行なっているが、幅広い年齢の子供たちが憩う場となっている。その環境と子供たちの様子を、図面や写真、動画を用いて報告する。
- ③⑰ 兵庫県:宮崎英輔(認定こども園立花愛の園幼稚園年長主任)、森陽一(認定こども園立花愛の園幼稚園主幹教諭)、古川智規(認定こども園立花愛の園幼稚園教諭)  
テーマ:遊びで支える、文字との出会い  
本園では、年長児になると文字に関する活動が多くなる。しかし、クラスの約半数近くが自分の名前が書けず、文字への関心も持っていないという現状にも関わらず、それを支える遊びや環境が十分とは言えなかった。そこで、今まで以上に文字に興味・関心を持ち、文字を書くための基礎を自然に見つけられるような環境と遊び・活動内容を考えていくことにした。

- ⑳ 群馬県:瀧澤花恵(ちぐさこども園保育教諭)、金子莉奈(ちぐさこども園保育教諭)

**テーマ:“対話”の起こる豊かな環境づくり～アーティストをまじえて～**

昨年度後半から、アーティストが断続的に当園の保育現場に入っている。彼の持っているユニークな発想や持ち込む素材、または存在そのものが、子どもと保育者達に様々な刺激を与えてきた。本企画では、彼(の提供する環境／素材)と出会った子どもの姿や保育者の戸惑い・発見を振り返り、「モノとの対話」、「他者との対話」、「自己との対話」等の“対話”の起こる豊かな環境について考えてみたい。

- ㉑ 神奈川県:黒本淑子(西鎌倉幼稚園教諭)、岩澤萌夏・佐藤典子(西鎌倉幼稚園教諭)

**テーマ:『生いたちの記(ポートフォリオ)』と『園内研修』の相互作用で保育が深まる～こどもの遊びや活動への変化と保育者の遊びのとらえ方～**

当園では、保育の質向上を図るため、園内研修(月1回)に加え、外部講師による研修にも力を入れてきた。また、育ちの記録やクラスだよりなどの見直しも行ってきた。ドキュメンテーションやラーニングストーリーなどについても勉強し、2年前より『生いたちの記(ポートフォリオ)』を始めた。これらを手探りで継続してきたことで、少しずつ子どもの遊びの姿にも変化を感じている。その手応えは何なのか?『生いたちの記』と『園内研修』のあり方やそこで気づいたことなどを読み取り・考察し、更なるステップアップへの手がかりを見つきたい。

- ㉒ 神奈川県:櫻井喜宣(さくらい幼稚園副園長)、坂内洋子(さくらい幼稚園主任)、荒川ひかる(さくらい幼稚園副主任)

**テーマ:ドキュメンテーションを活かした子ども理解と対話と実践**

活きた記録とは…ということを長年考えてきました。これまで書いておしまいの記録、同じことを何度も書いている記録、子どもの生活に活かさきれていない記録など、まるで負の連鎖のような位置にあった記録。しかし、記録なしには子どもの理解はもちろん深まらず、あそびのおもしろさや、学びの深さにも気が付けない。その記録を何とか保育者にとって活きた記録にならないかと模索した今のカタチ。そのカタチを活かした園の実践を、ポスター発表を通して振り返り、次へのステップへと繋げたい。

- ㉓ 佐賀県:松枝里美(高岸幼稚園教諭)、田中宣子・田中康平(高岸幼稚園講師)

**テーマ:「つくる・つたえる」ICTの活用 ～10の姿へのつながり～**

高岸幼稚園では、平成26年度より年長児の正課保育の中で、iPad等ICTの活用も含めた協働的な創作活動を行っている。「つくる、つたえる」をテーマにカリキュラムや指導案を用意し、改善を重ねながら、子どもの育ちや学びに寄与する様に努めている。グループで1台のiPadを活用して「まつ・みる・おうえんする」を合言葉にした活動から見えてきた子どもの育ちと、10の姿へのつながりについて発表する。

- ㉔ 京都府:篠原恵美(泉山幼稚園教諭)、林萌子・大江さくら(泉山幼稚園教諭)

**テーマ:遊びの中から生まれる作品展～保育者の願いと子どもの姿を大切にしながら～**

子どもたち主体の遊びを大切に保育をすすめている泉山幼稚園では、2018年度作品展をむかえるにあたって、保育者全員で「製作活動を通して子どもたちに経験してほしいこと」を話し合った。その内容を学年(4歳児)の子どもたちの姿や遊びに照らし合わせ、子どもたちの意見や思いを実現するために、話し合いの場をもちながら作品展に向けての製作活動を積み重ねていった実践について発表する。

- ㉕ 北海道:小田進一(北海道文教大学附属幼稚園園長)、眞田佐和子・梁川千尋(北海道文教大学附属幼稚園教諭)

**テーマ:保育者同士の保育観の認め合い、チーム力アップのあり方～あそびまつりを通して～**

「あそびまつり」の醍醐味は、こどもの思いをどのように実現していくか、その手だてや方向をこどもと共に探ることである。こどもの湧き上がる喜びを共感し、時に保育者の力の足りなさを痛感しながら実践を重ねてきた。その振り返りをする中で、こどもに適切なことを他の保育者へ求めることにより、互いの保育観を否定してしまう場面を体験し、共通理解の方法を工夫すること、そのための伝わりやすい、伝えたいような記録のあり方が検討課題となっている。今年度は、記録の仕方の工夫と保育者同士の自己開示、相互理解による個々の保育観の認め合いを通して、園全体の保育観を深め、チーム力アップを図る方法を探っていきたい。